

千里地理通信

関西大学地理学研究会会報 第57号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

Contents

Page 1

巻頭言

オセアニアの都市
の印象

伊東 理

Page 2

学窓から

新生活のはじまり
徳田 匡秀

一泊巡検報告

一泊巡検を終えて
飯野 菜尋

Page 4~5

研究ノート

八重山諸島竹富島
における祭祀・祈
りの場に関する覚
書

賀納 章雄

Page 6

関西大学地理学研
究会会員の皆様へ
のご連絡

教室だより

Page 7

平成18年度会計
報告

Page 8

随想

国際歴史地理学会
議ウォッチング

川口 洋

新入会員より

Page 2~3, 6

新院生紹介

Page 6~7

昨年度1年間在外研究に行ってきました。この間、教室の諸先生方や専攻学生・院生諸君、卒業生の皆様には、ご不便をお掛けしたことをお詫びします。お蔭様で有意義な1年間を過ごし、4月に元気で戻ってきました。イギリスに約9カ月間滞在した後に、3カ月ほどニュージーランド、オーストラリアの都市をみて帰国しました。かなり頻繁に訪れているイギリスでは、とりたてて新鮮な印象はありませんでしたが、今回生まれてはじめて訪れたオセアニアには少なからず興奮してしまいました。

今回両国を訪れることにしたのは、イギリスの厳冬には堪えられそうにないし、それに何よりもわが国や欧米の都市と比べて、オセアニアの都市がどのように異なるのかを自分の目でみたい、と単純に思ったからです。両

国の都市についての研究や情報を事前に入手することなく、まずは想像たくましく自分なりにオセアニアの都市のイメージ(想像)を巡らしながら、ニュージーランドではオークランド、クライストチャーチの二大都市、オーストラリアではシドニー、メルボルン、ブリスベンの三大都市をみてきました。

一番印象的であったのは、いずれの都市も欧米大都市と同様、あるいはそれ以上に複雑な民族構成をもち、またアジア系民族のウェイトが大きいことでした。例えば、オークランドでは、イギリス、イタリア等々のヨーロッパ系の人々が最も多いのですが、次いで韓国、中国、マレーシア、日本などのアジア系の民族が多く、こ

とに大学ではアジアからの留学生の多さには目だったものがあります。さらにネイティブのマオリ人、サモアを中心とした太平洋の島嶼部からの人々。オセアニアの都市においてもやはり民族間の貧富の差や居住地の民族的地域分化などもみられますが、しかし不思議なほどに民族間の軋轢は少なく、欧米大都市で経験するような独特の緊張感を感じることは全くありませんでした。これは確かにアジアの同胞が多いことによる安堵感とも関係しているでしょうが、間

違いなくオセアニアの都市社会の実態・特徴(未だわかりませんが?)と関連しているものと直感しました。もう一つ印象的だったことは、公共交通が予想外に便利で、その公共交通路に沿って多数の商店街がみられて、それらが比較的良好に機能していることにあ

ります。人口密度の低さ、世帯の自動車保有率の高さなどからして、北アメリカ型の都市構造やショッピングモールばかりの小売商業を予想していたのですが、それは完全な誤りでありました。こうしたことは、イギリス等のヨーロッパから、都市政策・都市計画の思想や手法が導入されていること、アジアからを筆頭とする急速な都市への人口流入が続いていること、などと関連しているものと思われました。

ほんの見聞を広めるだけのつもりだったのですが、オセアニアの都市もなかなか面白いものがありました。わが歳を考えると、まことに悩ましいことです。

(本学教授)

オセアニアの 都市の印象

伊東 理

池田未紗

最初は歴史に行こうと思っていましたが、歴史の先生の話聞いて行きたくなかった時、地理の先生の話聞いて地理に決めました。頑張ります♪

逸本茉莉子

山口県出身です。1年間地理の知バスを取っていて、おもしろいと思ったので地理学にきました。よろしくお祈りします。

大竹かおり

大阪府高槻市在住です。これから自分の知らないことをたくさん吸収していきたいです。

佐藤ふみ

自己紹介：モットーは「悔いのないように」です。石を拾ったら、私に下さい。それも含めて、どうぞ宜しくお願いします。

重村昌利

出身地は兵庫県尼崎市です。出身高校は市立尼崎高校(市尼)というところで。その高校で3年間ずっと野球をしていたので普通の人より野球のことに詳しいはず。こんな僕ですがよろしくおねがいします。

篠田義則

高知県出身。地理学専修にした理由は旅行や景色を見るのが好きだったからです。よろしくお祈りします。

宿利広和

大阪市生野区出身です。趣味はチャリンコ旅行です。よろしくお祈りします。

大長和代

環境に興味があり地理学専修にきました。旅行も好きなので大学生活ではできるだけたくさん場所に行きたいです。

四月、新生活が始まった。それまでの生活環境とは一変して、あらゆる事が新鮮なものとなった。

生活上の大きな変化は、独り暮らしが始まった事である。最初こそ一杯一杯だったが、最近には慣れたもので、あらゆる家事はそつなくこなせるようになった。また、独り暮らし経験者が口々に言う、「親のありがたみを知る。」という事を体感した。

学業面では、学校が変わった事である。これまで通った学校とは、全てが異なる環境だったが、親切な先輩方、友人、後輩のおかげで馴染む事が出来た。よく考えてみると、何かある度に周りの人に助けられてきた。

また、専攻が変わった事も学業面での変化で

ある。これまで学んできた建築や構造は、地理学とは全くの別分野かと思っていたが、地理で学ぶ都市地理も、建築で学ぶ都市計画もほとんど同じようなテーマであり、地理と建築には共通項目がいくつかある事を知った。結局のところは、何が学びたいかという事が大事で、文系・理系という決め事はここでは無意味なものに思えた。

こうして振り返ってみると、何らかの変化に直面するたびに、微少なながらも気づき、学んでいるのだという事を改めて思った。また今後は、そういった事を学ぶ機会を持ち続け、充実した大学院生活にしていきたい。

(博士前期課程1年)

一泊巡検報告

一泊巡検を終えて

飯野 菜尋

2007年5月26・27日、私たちは和歌山県御坊・海南方面への一泊巡検に行ってきました。今回は「統計」「自然」「御坊」「地場産業」「有田・海南」の5つの班に分かれ、その中でテーマを絞って調べました。

26日土曜日、JR天王寺駅前のバスターミナルに集合し、まず御坊市へ向かいました。バスの中では、和歌山の自然や統計についての発表がありました。御坊市に到着して、中世後期に栄えた御坊の寺内町の中心にある日高別院で、今回特別に参加された桑原康宏先生のお話を聞きました。次に、バスの中から煙樹ヶ浜を見ながら、三尾のアメリカ村を通過して、日御碕にあるカナダ資料館へ行きました。カナダ資料館には、当時使用されていた衣服やランプなどの生活用品がたくさんあり、その一つ一つがアメリカ村の歴史を物語っているようでした。

1時頃、湯浅へ出発しました。湯浅では、まず、昔と変わらず手作りで醤油を作っている「角長」の工場と資料館を見学しました。さらに、その周辺の醤油や味噌などの醸造業による建物が多く残る伝統建築地区の町並みを歩きました。どこか懐かしい感じがあり、町に醤油の

匂いが染み込んでいるような気がしました。

次に、急ぎ足で有田市の蚊取り線香の工場へ行きました。蚊取り線香を作る過程を見せてもらいました。蚊取り線香がなぜ緑なのかを知れておもしろかったです。そのあと創業者の上山氏や蚊取り線香の歴史やテレビCMについての話を工場の方から聞きました。そして、生産量全国第1位を誇る温州ミカンの木が生えた山々を見ながら、説明を聞きました。「ついこの間まで、真っ白なミカンの花が咲いていてきれいだったよ」と、蚊取り線香工場のおじさんが教えてくれました。

こうして、1日目の活動を終え、夜はおいし



い夕食をいただき、先生方や大学院生の方々と懇親会をしました。

2日目は海南市へ。熊野三山に詣でるための道である熊野古道に向かいました。そして、熊野三山の遙拝所とされ、子授け・長寿の守護神として広く信仰を集めている藤白神社に行きました。その後、日本四大漆器の一つである黒江塗が展示されている紀州漆器伝統産業会館を見学しました。のこぎり歯状の町並みと真壁の倉庫が特徴的な通りを歩きました。12時頃に現地解散し、今回の巡検は終了しました。

今回の巡検を終えて、振り返ってみて思った事は、フィールドワークの大切さです。私は「アメリカ村の移民」が担当だったのですが、

カナダ資料館の館長さんから移民の体験やエピソードを聞くことで、文献では分からなかったカナダ移民の気持ちや差別問題を知る事ができました。やはり、行って、見て、話すことで得るものは大きいし、人から話を聞くことでより興味がわくものだ、と思いました。

最後になりましたが、この巡検調査を指導して下さった先生方、大学院生の方々、どうもありがとうございました。私たちに協力して下さった全ての方に感謝しています。では、地理学教室のみなさん！今回の巡検調査を活かして、秋の沖縄の調査も仲良く、楽しく、真剣にがんばりましょう。

(本学3回生)

玉置奈都子
出身は、奈良県十津川村です。山がたくさんある大自然の中で、自由に育ちました。現在は、奈良市に住んでいます。旅行が好きです。よろしくお願ひします。

笹 振江
中国大連からの留学生。中国のハルビン大学で、漢民族言語文学を専攻した。その後、中国東北部の黒竜江省にある、国営林業経営管理局で、仕事を2年ぐらいたった。黒竜江省の湿地干拓事業、林地の開発、などに関する仕事である。今は、国土計画を中心に研究している。中国について、何か研究したい方は、ぜひ連絡してください。

豊田有加里
出身地は奈良で、約二時間かけて学校まで通ってます。よろしくお願ひします。

西口千絵
私は堺市出身です。高校時代から地理が好きだったので、迷わずこの専修を選びました。まだわからないことばかりですが、よろしくお願ひします。

林 依澄
出身は和歌山の海南市です。海南は最近廃れています。積極的に頑張ろうと思っているので、よろしくお願ひします。

廣田琢也
茨木出身です。地理を学びたくてこの学校に入学しました。どうぞ宜しくお願い致します。

堀口美紗
高校生の時から地理に興味があったので、この専修に入りました。歴史・人文地理を中心に幅広く学んでいきたいと思っています。よろしくお願ひします。

牧野有紗
兵庫県神戸市出身です。今はまだ地理の知識はほとんどないですが、これから一杯頑張ろうと思います。

卒業論文題目一覧 (2007年3月卒業生、修士論文提出者なし)

共存共栄の精神を受け継ぐ城崎温泉の魅力	池田大志
押部谷町における地域社会と神社	石井 碧
近畿圏の美術館 - 企画展がうつす時代背景 -	石川 晶子
児島湾沿岸のり養植卓越地における観光漁業の導入と環境問題	金 高 友 香
高岡市における地場産業の転換と継承 - 銅器とアルミニウム関連産業併存の構造 -	新 開 奈 央
東アジアからのインバウンド戦略	瀧 由 佳
千里ニュータウンに介在する「むら」の変容 - 豊中市上新田の景観変遷と地域社会 -	田 中 将 也
祝島のいとなみ	谷 口 修
ゆめはんな両端の二つの新興住宅地「学研奈良登美ヶ丘」と「コスモスクウェア」 - マンションの立地によって変貌する地域 -	手 島 理 沙
高槻市の小売商業の展開 - 大規模小売店舗と中心商店街の分析から -	仲 井 康 晃
悲しみの与那国島	中 島 知 美
副都心を目指した阿倍野 - 商業都市としての機能を見直す -	野 木 香 奈
灌漑用ため池の潰廃と残存ため池の活用構想 - 大阪府松原市を事例に -	的 場 貴 之
金沢のお寺 - お寺のやってゆきかたの違いによる景観変化 -	三 香 美 晋 一
CVS の立地と商品の相互関係 - 東大阪市における CVS を対象として -	美 島 英 幸
大阪市西区南堀江の変容 - 家具のまち立花通りの針路 -	山 下 未 知 留
大阪梅田地下街の多様性	和 田 卓 也
野外活動施設の自然史特性を活かした環境教育プログラムの開発	加 藤 正 貴
寝屋川流域における治水緑地の現代的意義	吉 田 圭 介

八重山諸島竹富島における祭祀・祈りの場に関する覚書

賀納 章雄

はじめに

八重山諸島竹富島では、ほぼ毎月のように祭祀・儀礼があり、祭祀の中心的役割を担う神司だけではなく、島の一般の人々も積極的に祭に参加する光景がみられる。祭祀の場として中心となるのは御嶽（オン）である。島には28か所の御嶽があるが、中でも重要視されるのが、六山（ムヤマ）とよばれ、島の村建て伝承とも関わり、島の人々が氏子（ヤマニンジュ）として所属する6か所の御嶽と、島全体におけるムラオンとよばれる4か所の御嶽である。これらの御嶽では、祭によって異なるが、種子取祭（タナドゥイ）や豊年祭（パイ）、結願祭（キツガン）をはじめとする祭祀の場となる。また、御嶽のほかにも、海から神様を迎える島の西海岸に立つニーラン石や、井戸、集落内の道などが祭祀や祈りの場であったりする。

このような祭祀・祈りの場は、一見古くから同じ場所で不変的にあるようにみられがちであるが、実際は様々な事情によりその場が移り変わったり、新たに祭の場が生まれるなどしている。そして、島の人々の中では、度々祭祀・祈りの場について議論されることもある。最近も、竹富島では祭祀や祈りの場に関して、島の人々の意識をうかがい知ることのできる出来事があった。ここでは、そうした事例を紹介して、竹富島の祭祀・祈りの場という意味を考えていく上での覚書としたい。

御嶽という場

2004年3月、国際交流基金の事業で世界遺産に関わるユネスコ関係者も加わって、沖縄の御嶽とアジアの聖空間をテーマとした国際フォーラムが沖縄で開催された。そして、フォーラム前には、御嶽など聖地をめぐる視察が参加者によって行われた。この視察では沖縄本島のほか竹富島にも足が向けられ、竹富島の人々はフォーラムに参加する外国人研究者たちを迎い入れることとなった。そこでは竹富島の御嶽が見学されるとともに、竹富島の人々との交流会を含め島の祭を肌で感じられるような催しが開かれた。その催しの1つとして、種子取祭で奉納される芸能の舞踊と狂言が清明御嶽で披露された。通常、種子取祭の奉納芸能は世持御嶽で奉納されるものであり、こうした見学のためという目的での披露はほとんど行われることはなく、また清明御嶽で披露されるという点でイレギュラーなものであった。

この点に関しては、このフォーラムの報告書においても記されているが、種子取祭の芸能を清明御嶽で行うに至った経過については竹富島側の世話役から視察参加者に説明があり、今回の清明御嶽での種子取祭の奉納芸能の披露は、神司によって神様に許しを得ての特別なものであることが伝えられた。しか

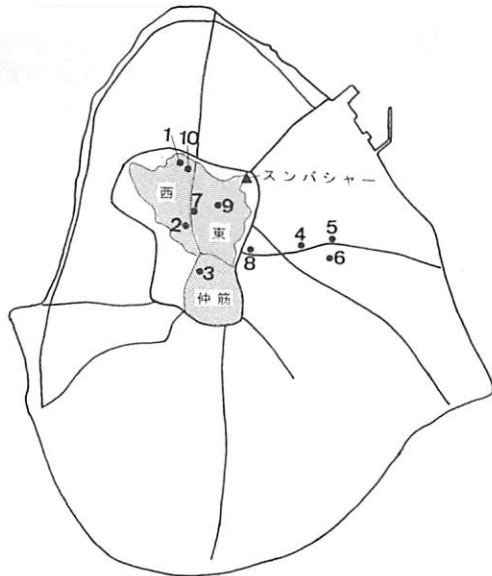
し、清明御嶽で種子取祭の芸能が行われることについては、視察の一行に説明された以上に、島の人々の中（島の自治組織となる公民館の議会）でその是非について議論され、この問題によって公民館の仕事もまわらないほどであったという。それは、祭でもない普通の日に御嶽で見学という目的で芸能をしても良いのかという点が問題となり意見が交わされたという。そして、視察日の2週間ほど前に神司が占いという方法で神様にうかがいをたてて許しが出てようやく決着したということであった。しかし、島の人すべてがそれを納得したというわけではなく、神様の許しが出た後も、それに賛成しかねる人たちもおり、奉納芸能を見に来ることもなく、また、芸能見学後の視察団との交流会にも参加しない人もいた。

その後、国際フォーラムは沖縄本島で開催された。筆者はそのフォーラムには参加していないので、その詳細な内容はわからないが、その報告書を見ると、フォーラム参加者から竹富島の視察に関して、本来の祭の日でなく、また本来の場所でない御嶽における種子取祭の芸能から、本当の祭の場という意味がとらえ得るのかという質問があった。これに対して、竹富島の案内役の一人であるパネリストは、今回の清明御嶽も、かつて一時期種子取祭の芸能が奉納された場所であり、御嶽の空間構成を感じられるものではなかったかと回答している。

しかし、竹富島の人々にとっては、それは違和感のある芸能であったに違いない。この視察に関して、竹富島での視察の世話役の1人であり、竹富島出身の民俗学者である狩俣恵一氏は振り返って次のように述べている。

「私も、最初に竹富視察の話を伺ったとき、ケの日に御嶽において、踊り・狂言を行うのは無理だろうと思った。というのは、これを有形の遺産に例えるならば、御嶽を移動して欲しいと言われるのと、同じほどショッキングなことであり、島の心をズタズタにされるように思えたからである。」

この狩俣氏のコメントは、島の外の人間が考えている以上に、竹富島の人々が御嶽という場をどれほど大切に思い、そして厳格にとらえているかを我々に示しているといえる。竹富島の人々は、公には神様の許しを得て、種子取祭の奉納芸能を、フォーラムの視察のために行うことを決定した。しかし、神様の許しを得られた後も、それを納得できない人たちもいた。これは、神聖な御嶽においてむやみに本来の意味をもたない芸能を行うべきではないという抵抗感によるものであり、この抵抗感には、当初島の多くの人々に抱かれたものであった。これは、竹富島の人々が御嶽という場に強く畏敬の念をもって接していることの表われであり、また神様へ奉納する芸能に対しての真摯な姿勢から来ているものであり、この視察における出来事



- | | | |
|----------|---------|----------|
| 1. 波座間御嶽 | 2. 仲筋御嶽 | 3. 幸本御嶽 |
| 4. 久間原御嶽 | 5. 花城御嶽 | 6. 波レ若御嶽 |
| 7. 清明御嶽 | 8. 国仲御嶽 | 9. 西塘御嶽 |
| 10. 世持御嶽 | | |

図1 竹富島の御嶽とスンバシャー
(1~6: ムーヤマ, 7~10: ムラオン)



写真1 清明御嶽での種子取祭の芸能



写真2 スンバシャーでの石敢当建立

は、竹富島の人々の御嶽に寄せる思いを垣間見せるものであったといえる。

魔除けの場

沖縄には、魔除けの意味をもつものとして、シーサーや屋敷の入口にあるヒンプン、石敢当などがみられる。そして、ツンマセとよばれ、集落の入口付近で道が交差する場所に石垣が積み、そこに木が植えられている場所も、集落へ災厄が入って来ないようにする魔除けの意味をもっている。竹富島ではスンバシャーとよばれ、現在島に2か所ある。竹富島には3つの集落(東・西・仲筋)があるが、スンバシャーの1か所は港から東集落へと続くいわば島のメインロードにある。ところが、数年前、そこに植えられていたガジュマルが枯れてしまった。そして、その後、島では不幸な事故が続くという状況があった。そこで、2005年9月このスンバシャーに石敢当が建てられることになった。

石敢当は、一般的に道の突き当たりなどに建てられている。そうした石敢当については、その場所に当たる家の人などが個人的に建てるということであるが、今回は島の人たちが話し合っ、東集落の人たちによって建てられることになり、石敢当を建てるに際しては、東集落の人たちが参列し、神司によって願い(ニガイ)が行われた。このとき、石敢当が建てられる場所には穴が掘られ、豚肉が供物として穴に供えられ、その豚肉には厄を祓う意味をもつ針がさされた。そして、その上に石敢当となる石が据えられた。こうした石敢当を建てることでの願いは初めてのことであり、神司もその願い口をどのように唱えれば良いのかと考えたという。

このように、現在、東集落のスンバシャーには、石敢当が建てられ、集落への災厄の進入を防ごうとされ、その後、このス

ンバシャーには新しくガジュマルも植えられている。つまり、このスンバシャーは、島の人たちによって、魔除けの場としてより整備されているのである。それは、スンバシャーの木が枯れ、不幸が続いたということ起因としているが、これは、竹富島の人たちにとって、今日もスンバシャーや石敢当が魔除けの場として生活の中で生きており、そうした場として意識されていることの証しといえよう。

おわりに

以上、最近竹富島で祭祀や祈りの場に関連して2つの事例を紹介した。これらの事例からは、今日も竹富島においては祭祀・祈りの場が島の人々にとって重要な意味をもち、何らかの事態が生じたときに、そのことについて真剣に議論される対象であることがわかる。これは、場の問題だけに限らず、竹富島の人々がいかに祭や儀礼に対して真剣に向き合っているかということを示すものといえるが、今後は、ほかの事例も含めて、そうした場に対する島の人々の思いや意識をみていき、竹富島の祭祀・祈りの場という問題を考えてみたいと思う。

(吹田市立博物館)

【参考文献・ウェブサイト】

- 亀井秀一(1990)『竹富島の歴史と民俗』, 角川書店
 狩俣恵一(2004)『竹富島・世界遺産に向けて第一歩』, 星砂の島第8号, 94-96頁
 南島地名研究センター(2006)『地名を歩く 増補改訂 奄美・沖縄の人・神・自然』, ボーダーインク
<http://www.jpff.go.jp/j/> (国際交流基金ホームページ)

増田 妃
鹿児島出身で一回生の時は神戸の六甲アイランドに下宿していて、二回生になってから関西に引っ越してきました。よろしくお祈りします。

水落仁美
関西外大短大部から編入してきた3回生です。よろしく。

宮本直弥
はじめまして、出身は広島です。地理は右も左もまだわからない僕ですが、頑張りますのでよろしくお祈りします。

吉井 悠
歴史や地理が好きだったので、地理学専修に進む事にしました。文化に興味があります。

渡邊瑛子
私は海と山に囲まれた神戸市に住んでいます。車ならすぐに海に出れるし、山のドライブも楽しめめす。神戸の夜景は「100万ドルの夜景」と言われていて、言葉にならないくらい本当にきれいです。皆さんも是非また足を運んで下さい。これからもよろしくお祈りします。

関西大学地理学研究会会員の皆様へのご連絡

関西大学地理学研究会事務局

1. 日帰り巡検のご案内

毎年研究会の恒例行事となっている日帰り巡検を実施します。ひとりでも多くの卒業生、現役学生、院生の参加をお待ちしています。

テーマ：城下町から宿場町・港町へと変貌した伏見と巨椋池開発

日時：平成19年10月21日（日）10時30分～16時30分（予定）

集合：近鉄京都線向島駅 改札口前（10時20分）

コース：近鉄京都線向島駅→向島ニュータウン（干拓による住宅開発）→近鉄京都線（向島駅→桃山御陵前駅 運賃150円）→大手筋商店街（昼食）→御香宮神社→明治天皇伏見桃山陵（伏見城天守閣跡）→京阪宇治線（桃山南口駅→中書島駅 運賃150円）→伏見港公園→寺田屋（寺田屋騒動跡）→月桂冠大倉記念館（酒造業見学、入館料300円）→長建寺→京阪本線中書島駅（現地解散）

費用：600円（昼食代は各自負担）

その他：雨天決行。大手筋商店街周辺散策後、昼食とします。商店街に飲食店は多くございます。

連絡先：参加希望の方は10月15日（月）までにメールまたは電話で池田（090-8621-5467, mach-upiicchu_2280 m@q.vodafone.ne.jp）までご連絡下さい。

2. 地理学研究会第94回例会（研究例会）

日時：平成19年12月8日（土）15時開始 18時懇親会予定

会場：関西大学以文館4F アジア文化交流研究センターセミナースペース

講演：岡本訓明「近代日本の歴史的都市における街路と都市構造の研究」

：辻 康男「地理学教室で学んだ地形学を軸とした地質コンサルタントとしての現業務・研究」

：伊東 理「オセアニアの都市をみて」

※なお例会の冒頭で博士前期課程による今帰仁村における実習調査の報告を予定しています。

新院生紹介

博士前期課程

池田大志
Hello! I like travel around Japan. 昨年ようやく47都道府県制覇と民間人が行ける日本最東西南北端に跡を残してきました。観光について勉強していますが、いつか日本の良さを日本人や外国人に伝えていけるような仕事ができれば本望です。元気があれば何でも出来るっ!!

徳田匡秀
はじめまして。元々、建築系出身のため、専門的な地理の知識はありません。むしろ無知なだけに、貪欲にいろいろと思っています。よろしくお祈りします。

教室だより

■19年度の2回生で地理学教室に新たに入ってきた学部学生は20名（男6名 女14名）、編入の3回生は1名でした。また、大学院博士前期課程は6名を新たに迎えました。このうち2名は社会人入学です。また徳山高専から1名、他学部から1名、内部進学が2名でした。博士後期課程のD1には社会人入学の芦田淳一（歴史地理）の1名です。その結果、大学院生は総勢24名となりました。

4月26日（木）夜に「フランススペース」で歓迎会を開催しました。これで地理学教室の構成は2回生20名、3回生15名、4回生15名、大学院博士前期課程16名、博士課程後期課程8名となり、全構成員は74名です。

■恒例の「地理学実習」によるバスで行く1泊巡検は5月26日（土）～27日（日）の1泊2

日由高橋、野間、伊東の3教員と19名の3回生、大学院生、卒業生も加えて和歌山県御坊、有田、海南で実施しました。見学地の記録は本誌の「1泊巡検報告」をご覧ください。

■関西大学文学研究科が中心となって平成19年度の文部科学省「グローバルCOEプログラム」に申請していた「東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成－周縁アプローチによる新たな東アジア文化像の創出－」プログラムが採択されました。このプログラムに対して、地理学からは高橋、野間両教授が申請メンバーとして、東アジアを対象とした教育研究拠点作りにも協力されることとなりました。

■大学院博士前期課程2回生の修士論文中間発表を7月14日（土）に地理学実習室で行い、白澤武蔵・匡达伶、飼牛敬太・河野俊英・丁佳潔・舟越寿尚・真鍋一弘、谷真理子、川合

はるな、曾我傑の10名が発表しました。

■2007年度日本地理教育学会 第57回大会が8月4日(土)～5日(日) 関西大学千里山キャンパス政策創造学部学舎を会場として開催されました。橋本教授が主催者挨拶をされ、公開講演会では高橋教授が「琉球を歩くーひとあじちがう奄美・沖縄の旅」を講演されました。またシンポジウム「地域を読みとく地理力」では橋本先生、野間両教授が、一般発表では水谷彰伸、元田茂充、森田浩司、岡田良平、松井幸一、曾我傑が、ポスターセッションでは水田憲志、的場貴之が発表しました(大会参加者242名)。

8月6日(月)には「地下鉄今里筋線に沿ってー吹田・大阪市東縁の交通・産業・景



日本地理教育学会大会会場にて(高橋教授の講演)



学会エクスカージョンにて(橋本先生父子の現地説明)

観」をテーマにエクスカージョンが行われ、大学院生が中心となって案内しました(参加者66名)。

■大学院博士前期課程1回生6名と博士後期課程4名による大学院研究発表会を、9月29日(土)に地理学実習室で行います。

■平成19年4月～9月までの教員の海外出張は以下の通りでした。

高橋誠一：2007年8月28日～9月3日、ベトナム歴史地理調査及びベトナム国家大学ハノイ校にて集中講義(科研費)。

野間晴雄：2007年7月17日～20日、フィリピンの世界文化遺産の調査(学内共同研究費)。

■今年の実習調査は10月2日～6日の5日間、沖縄県今帰仁村において実施する予定です。担当は伊東、野間の2教員、M1を含めて総勢24名です。

■高橋誠一教授著『東アジア都城紀行』が4月にナカニシヤ出版より刊行されました。定価は1890円で、一般書店でも購入できます。



『東アジア都城紀行』

的場貴之
学部を引き続き、お世話になります。関西大学にお世話になりもう11年目です。大学院では地理教師としてのスキルを伸ばしていきたいと考えております。先輩の皆様、ご迷惑をお掛けする事のほうが多いと思いますが、ご指導よろしくお願いたします。

松井僚平
高橋ゼミです。今年から地理学でお世話になることになりました。出身は沖縄です。多趣味です。近鉄ファンです。3年コースです。でかいのですぐに目につきます。よろしくお願いたします。

松村 弘
私も漸く大学院生、夢の「地理学」に！
此处でご指導を仰ぎ、世界の「大出版」にする閃きを修得したく、唯唯これを一途に邁進する。好きなことは左記の実現への行動、旅行と麦酒。

丸橋由起子
高校までは福岡、大学は東京。でも西宮での生活が一番長くなってしまいました。○十年ぶりの学生生活。若いパワーに刺激され、毎日ワクワクしながら通学しています。これで論文書かなくていいなら最高なんだけど...

博士後期課程

芦田淳一
多くの史資料を用い、多角的な視野をもつ歴史地理学の就学は、研究の視野を広げるだけでなく、考古資料に新たな資料的価値と可能性をみいだすことができると思い、入学しました。どうぞよろしくお願致します。

)))))) 平成18年度会計報告 ((((((

〈収入の部〉	
前年度繰越金	231,122 円
会費収入	136,500 円
計	367,622 円

〈支出の部〉	
会報印刷費	69,825 円
通信費	24,900 円
備品購入費	8,848 円
計	103,573 円

平成18年度差引残高 264,049 円
以上報告申し上げます。

(会計：谷真理子、松井僚平)

原稿募集

以下の原稿を募集しています。

1. 「卒業生だより」：卒業生諸氏の近況報告を募集しています。(800字程度)。
2. 「学窓から」：在学中の学部生・院生の方から募集しています。日頃の学習・研究活動の様子をご報告下さい(800字程度)。
3. 「研究ノート」：日頃の研究成果をご報告下さい(図表を含めて見開き2頁, 1500～2000字程度)。

2009年8月末に京都大学を会場として第14回国際歴史地理学会議（14th International Conference of Historical Geographers (ICHG 2009)）が開催されることになりました。具体的な日取りや巡検を含むプログラムはまだ決まっていますが、国際会議ウォッチングを今からワクワク楽しみにしています。是非、参加しましょう!! フィールドワークの技法を鍛えられた地理学専攻の皆様が様々な発見をされること請け合いです。

私が ICHG デビューを果たしたのは、2001年8月にカナダのケベック市で開催された第11回大会のことでした。会場となったラーバル大学は、リスやアライグマなどが住みついている広大なキャンパスを有し、1663年に初代ニュー・フランス司教がルイ14世の認可を受けて設立した神学校以来の長い歴史を誇る名門校です。

一週間にわたる会議の間に世界遺産に指定されたケベック旧市街地の半日巡検がありました。参加者をバスで大学から城門に運び、説明者の立っている位置を示した地図を配布して集合時間を決め、

城壁内部の旧市街地を自由に見学するという手順でした。各ポイントでは、説明書を手にしたボーイ/ガールスカウトが、聴衆の集まるごとに英語とフランス語で説明してくれます。この方法だと参加者が何人いても対応できますね。さすが!

一番疲れたのはバンケットです。セントローレンス川を挟んでケベック旧市街を望むレストランに場所を移して、18:00頃からカクテル・パーティーが始まり、日暮れとともにテーブルに着席したのが20:00近くです。フルコースのご馳走を行儀よく食べながら英語で雑談するのは、なかなか骨が折れます。食事中もスピーチや賞品の授与が延々と続くので、お手洗いにいくタイミングを計っていると苦しくなりました。スピーチが一段落した隙に席を立つと、私の後に長い行列ができていました。先生方も我慢しておられたようです。宴が果てバ

スが大学に到着したのは24:00を過ぎていました。イギリスの若手からディスコに誘われましたが、もう我々は動けません。恐るべき胃袋、気力、体力です!!

開催校を決めるビジネス・ミーティングも興味津々でした。議長が立候補を募ると、まず（ケベックを含むフランス語圏と対抗意識の強い）ドイツ・オランダ共催案が提案され、次いで（この会議を始めたケンブリッジ大学のあるイングランドと張るつもりか）スコットランドが立ち、そして（nemawashiの打ち合わせせどおり）日本がアジア初の開催を目指すアピールをすると、すかさず中国が（アジアの代表として）立候補を表明するといった具合で、国際関係を解説する授業を見ているようでした。地理学徒としては、本能的に血が騒いでしまうので

しょうか?居眠りしようと思っていた私も、思わず会議の進行に聞き入ってしまいました。（括弧の中は校正のときに削除し忘れた影の声です。）

ケベック以来、ニュージーランドのオークランド大学（2003）で開か

れた第12回大会、ドイツのハンブルグ大学（2006）を会場とした第13回大会で楽しい思い出を積み重ねてきました。短い紙数では語り尽くせません。肝心要の研究報告と討論のコツとも合わせて、あとは休憩時間にでもお話ししましょう。

（帝塚山大学教授・本学大学院非常勤講師）

随想

国際歴史地理学会議 ウォッチング

川口 洋

千里地理通信 第57号

2007年9月10日 発行

関西大学地理学研究会

〒564-8680 吹田市山手町3丁目3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内

Tel: 06-6368-1121 (内線 4890: 大学院生室)

e-mail: moto@ipcku.kansai-u.ac.jp

URL: http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~moto/KU_Geography/index.html

郵便振替: 大阪 00970-4-81149